

児童が災害時を想定しビニール袋で作った防災カレー
ーやきな粉餅

＝南さつま市の小湊小

ビニール袋で作って食べ
る防災カレー

防災カレー作り備え

自作の備蓄米、ビニール袋で炊飯



南さつま市・小湊小で食育

南さつま市の小湊小学校は、地震や津波、台風と
いった災害への備えに力を入れている。3、4年生
は災害時の炊き出しを想定した防災カレー作りに初
めて挑戦。自分たちで栽培し備蓄していた米をビニ
ール袋で炊くなど工夫した。また土曜授業の日には
集団下校し防災意識を高めている。

同校は海に近い港町にあ
り、海拔約3・5m。地震や
津波の被害は近年ないが、
昨夏は台風で停電が長く続
き、1月には同市で震度4
が記録されるなど危機意識
が高まっている。防災カレ
ー作りは1月30日にあり、
市農林振興課の藤田孝子さ
ん、飯島ちはるさん、JA南
さつまの西尾あかねさんが
食育を兼ね指導した。

児童5人は、湯飲み1杯
の米を一人ずつ耐熱ビニ
ール袋に入れ、市の備蓄水
を投入。災害時は水が貴重
なため米は研がなかった。ジ
ャガイモやニンジンが皮が
ついたままカット、砕いた
ルウや缶詰のツナとともに
袋に入れた。米、カレーそ
れぞれ鍋で20分湯せん。洗
い物を出さないよう袋の
ご飯にカレーをかけて食
べた。

土曜授業の2月8日には
全校児童20人がホールに集
合、地区に分かれ下校した。
小山俊明校長は「学んだこ
とや体験が記憶となりいざ
というときに役立てば」と
期待した。

【問1】 南さつま市の小湊小学校の3、4年生は、どんなことを想定して防災カレー作りに挑戦しましたか。

(**災害時の炊き出し**)を想定した防災カレー作りに初めて挑戦。

【問2】 南さつま市の小湊小学校では、土曜授業の日に、どのようなことをして防災意識を高めていますか。

土曜授業の日には(**集団下校**)し防災意識を高めている。

【問3】 南さつま市の小湊小学校の防災カレー作りの様子を書きましょう。

・(**湯飲み 1 杯**)の米を一人ずつ耐熱(**ビニール袋**)に入れ、市の(**備蓄水**)を投入。

・災害時は(**水**)が貴重なため(**米**)は研がなかった。

・ジャガイモやニンジンは(**皮**)がついたままカット、砕いたルウや缶詰のツナとともに袋に入れた。米、カレーそれぞれ鍋で20分湯せん。

・(**洗い物を出さないよう**)袋のご飯にカレーをかけて食べた。

【書きましょう】 この記事を読んだ感想を書きましょう。

2025年2月12日付15面

むずかしい漢字とことば

小湊(こ・みなと) 地震(じ・しん) 津波(つ・なみ) 災害(さい・がい) 備(そな)え 炊(た)き出(だ)し＝災害にあった人々に、大量に調理して配ること
防災(ぼう・さい) 挑戦(ちょう・せん) 栽培(さい・ばい) 備蓄(び・ちく)＝必要な物をたくわえ、保管しておくこと 袋(ふくろ) 授業(じゅ・ぎょう) 集団(しゅう・だん)
意識(い・しき) 海拔(かい・ぱつ)＝海面からの陸地や山の高さ。標高(ひょう・こう) 被害(ひ・がい) 停電(てい・でん) 危機(き・き)
振興(しん・こう)＝ものごとをさかんにすること 兼(か)ね 指導(し・どう) 杯(はい、ここでは「ぱい」) 耐熱(たい・ねつ) 貴重(き・ちよう) 研(と)がなかった
砕(くだ)いた 缶詰(かん・づめ) 鍋(なべ) 洗(あら)い物(もの)

©南日本新聞社 教育目的以外の無断転載 複製および頒布は禁止します

